

「東アジア世界との関わりと社会の変動」

本単元で育成する資質・能力

知識・技能 思考力・判断力・表現力
主体的に学ぶ力 他者とのかかわる力

① 単元について(単元観・生徒観・指導観)

1 単元観

本単元は、学習指導要領の歴史的分野「(4) 近世の日本」 「ア 戦国の動乱, ヨーロッパ人來航の背景とその影響, 織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係, 武将や豪商などの生活文化の展開などを通して, 近世社会の基礎がつくられていったことを理解させる。」に基づいている。「戦国の動乱」については, 戦国大名が各地に割拠し, 自らの力で領国を支配して分国法を定めたり, 城下町を形成して産業の振興に努めたりしたことなどに気付かせることをねらいとしている。

ここでは, 戦国大名が常に他国からの圧力や領国の民衆たちを治めるために必要だった分国法を戦国大名の立場になって注目させる。また, 当時の時代背景, 戦国大名の分布, 各地で民衆が自治を行っていたことを理解し, 戦国大名が領国を支配し, 勢力を強めるためにどんな方法が必要だったのかが表現できるようにする。

2 生徒観

本学級の生徒は, 授業中, 真面目に取り組んでいる生徒が多い一方, 受け身になっている生徒も少なくない。また, 自分の考えや意見を発表する場面では, 消極的な面もある。

次の表は, 12月に実施した生徒アンケートの中の社会の授業に関する結果である。

アンケート項目	105R	1学年全体
授業はわかりやすいと思う。	87.5%	85.1%
自分から課題を解決しようとしています。	71.9%	82.1%
学び合い(グループやペア学習等)により, 学習内容の理解を深められています。	84.4%	88.5%
自主ノートにその日に学習した事をまとめています。	53.1%	57.3%

このことから, 「自ら課題を解決しようとしている」, 「学び合いにより, 学習内容の理解を深めている」項目において学年全体に比べ課題があり, 単元において, 生徒が積極的に学習に取り組める課題や, 学び合いができる場面を設定する必要がある。

3 指導観

指導にあたっては, 主体的な学習ができるよう, 個人思考をしたうえでグループ討議に取り組ませる。

「戦国の動乱」の学習では, 戦国時代の社会のようすを応仁の乱後の下剋上の風潮の中, 戦国大名の登場と関連付け理解させる。また, その領国支配については, 家臣をまとめるために作った分国法について考えさせる。

まず, 家臣の統率の仕方や農民の生活などについて, 主な分国法は何に焦点を当てて作られていたのかをつかませる。その上で, 自分なりの分国法を考え, グループ内で交流することで課題解決に取り組ませる。また, 資料の読み取りにおいては, さまざまな資料を関連付け, 比較させグループ内で意見交流をさせ, 多角的に捉えられるようにする。こうした活動を通して, 学び合いによる学習内容の理解を深めさせ, 思考力・判断力・表現力を高めることができるようにする。

② 単元の目標と身に付けさせたい力について

1 単元の目標

- (1) 鎌倉幕府の滅亡、南北朝の動乱、室町幕府の成立、応仁の乱と戦国大名の登場を通して、武家政治の展開を理解させる。
- (2) 諸産業が発達した都市や農村に自治的な仕組みが生まれるなど、民衆が成長していったことを理解させる。
- (3) 東アジア世界との関わりをモンゴルの襲来、日明貿易、琉球の国際的役割を通して理解させ、その関わりが中世の日本におよぼした影響を考えさせる。
- (4) 室町時代の新しい文化の特色を理解させ、現在との結びつきに気付かせる。

2 単元の評価規準

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 社会的事象についての知識・理解
① 鎌倉幕府の滅亡から戦国大名の登場までの武家社会の展開、経済の発達と社会の変化、室町文化に対する関心を高め、意欲的に学習している。 ② モンゴルの襲来、日明貿易、琉球の国際的役割など、東アジア世界とのつながりに関心を高め、意欲的に学習している。	① モンゴルの襲来や日明貿易が日本の政治や社会に与えた影響について、多面的・多角的に考察している。 ② 自治的な仕組みの発生、武士や民衆の活力を背景にした新しい文化の誕生といった社会の変化を、農業をはじめとする諸産業の発達、政治の動きなどから多面的・多角的に考察している。	① 鎌倉幕府の滅亡から戦国大名までの武家社会の展開、経済の発達と変化、室町文化に関するさまざまな資料を活用している。	① 東アジア世界との関わりを背景に、鎌倉幕府の滅亡から戦国大名の登場までの武家社会の展開を理解している。 ② 農業をはじめとする諸産業が発達し、都市や農村に自治的な仕組みが生まれたことや、武士や民衆の活力を背景にした新しい文化が生まれたことを理解している。

3 本単元で育成を目指す資質・能力

(1) 本校の設定した資質・能力と本単元との関わり

資質・能力	特に身に付けさせたい力	本単元での育成・評価
知識・技能	知 ①学習したことを自ら語れる力（知の構造化）	○
思考力・判断力・表現力	思 ①根拠をもとに、正しい判断をする力（論理的思考力）	○
	②よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方を持つ力（批判的思考力）	○
	③自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝える力（言語力）	○
主体的に学ぶ力	主 ①自ら課題を見だし、解決しようとする力	○
他者とかかわる力	他 ①他者と協力して、課題を解決したり、目標に向かって取り組んだりする力	○
	②他者とのかかわりを通して、自分の考えを深めたり広げたりしようとする力	○
社会貢献力	社 ①よりよい地域社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力	—
自己形成力	自 ①前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力	—
	②自信を持つ力	—

(2) 本単元で本校の設定した資質・能力を身に付けさせるための手立て

資質・能力	資質・能力を身に付けさせるための手立て
知ー①	歴史用語を使っての歴史の流れを説明させる。
思ー①	資料をもとに歴史的事象をとらえさせる。
思ー②	資料を関連付け歴史的事象を説明させる。
思ー③	グループで自分の考えを交流する場面を設定する。

主一①	支配するためには「どのようなものがあればよいか」の課題を設定する。
他一①	グループ内で意見の共通点を探させる。
他一②	グループ内での意見を聞き個人思考を深めさせる。

③ 単元計画

1 単元の全体像（Ⅰ：学習内容、Ⅱ：学習活動、Ⅲ：単元として生徒に身に付けさせたい力）

Ⅰ	室町幕府の発展と社会の様子について、	Ⅱ	東アジアとの関わりや南北朝の動乱から戦国大名の登場までの背景を理解することを通して、	Ⅲ	武家政治の展開について説明する力を身に付ける。
---	--------------------	---	--	---	-------------------------

2 単元の終末で見取るパフォーマンス評価

パフォーマンス課題	評価基準	
あなたは、戦国大名になりました。領国を治めるための分国法を考えてみよう。	A	戦国大名の情報を整理して、自分なりの分国法を作成し、自分なりの領国支配を考えることができている。
	B	戦国大名の情報を整理して、自分なりの分国法を作成することができている。
	C	戦国大名の情報から、自分なりの分国法を作成することができている。

3 学習内容と評価の計画

学習過程	時	○本時のめあて ●学習内容	評 価					
			関	考	技	知	評価規準 (評価方法) 【資質・能力】	※評価規準の太字ゴシック体の部分において本校が設定した資質・能力を評価する。
課題の設定	1	○モンゴルの襲来と日本 ●モンゴル帝国の拡大 ●二度の襲来 ●鎌倉幕府の滅亡		◎	○		イ、ウー① モンゴルの襲来による影響を、御家人の動きから考えることができる。 (発表) 【思一①】	
	2	○南北朝の動乱と室町幕府 ●南北朝の動乱 ●室町幕府の発展 ●守護大名と地方の動き		◎		○	イー① 南北朝の動乱後の武家社会の変化のようすを考えることができる。 (発表) 【知一①】 【思一①】	
情報・分析の整理	3	○東アジアとの交流 ●日明貿易 ●朝鮮との貿易 ●琉球王国の成立 ●アイヌ民族の交易			◎	○	ウー① 日明貿易の仕組みと琉球の役割や蝦夷地とのつながりが説明できる。 (ワークシート) 【思一①】	
	4	○産業の発達と民衆の生活 ●農業の進歩と手工業の発展 ●商業の発展と都市の成長 ●村の自治		◎			ア、イー② 農業や商業の発達による社会の変化のようすを考えることができる。 (発表) 【思一②】	

	5	○応仁の乱と戦国大名 ●応仁の乱	○	◎	ア, ウー① 下剋上の風潮が広がっていったようすを説明することができる。 (発表) 【知ー①】 【思ー②】
実行	6	○応仁の乱と戦国大名 ●戦国大名の登場と城下町【本時】	○	◎	ア, ウー① 戦国大名が支配を強めていったようすから分国法を作成することができる。 (行動観察, ワークシート, 発表) 【主ー①】 【他ー①, ②】 【思ー③】
まとめ・表現・創造	7	○室町文化とその広がり ●室町文化 ●武士の文化の成長 ●民衆への文化の広がり	○	◎	アー①, エー② 室町文化の特色を説明することができる。 (ワークシート, 発表)
振り返り	8	○室町時代の文化と現代 ●室町文化と現代生活とのつながり	◎	○	イー②, ウー① 現代生活に受け継がれている文化の特色を説明することができる。 (ワークシート) 【知ー①】 【思ー②】

④ 本時の学習

1 本時の目標

戦国時代の分国法を戦国大名の立場で考えさせ、自分なりの分国法を表現することができる。

2 本時の評価

評価規準 (評価の観点)	評価基準	
ウ 戦国大名が支配を強めていったようすから分国法を作成することができる。 (ワークシート, 発表) 【主ー①】 【他ー①, ②】	A	戦国大名の情報を整理して、自分なりの分国法を作成し、自分なり領国支配を考えることができている。
	B	戦国大名の情報を整理して、自分なりの分国法を作成することができる。
	C	戦国大名の情報から、自分なりの分国法を作成することができる。

3 準備物

教科書, 資料集, ワークシート

4 学習展開 (6 限目/8)

学習過程	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・創造・表現	実行	振り返り
	学 習 活 動		指 導 上 の 留 意 点			評価規準 (評価方法) 【資質・能力】
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 戦国大名の登場の背景について想起させる。 (K…くり返し挑戦する) 本時のめあてを確認する。 		<ul style="list-style-type: none"> 守護大名に代わって戦国大名が実権を握るようになった社会の風潮(下剋上)について確認させる。 			
	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> 【本時のめあて】 戦国大名の立場になって分国法を表現しよう。 </div>					

<p>展開① (20分)</p>	<p>・分国法は、どのような視点で作られていたのかについて、主な分国法を参考に、自分なりの分国法を再考する。 (個人思考)</p> <p>【J】…じっくり考える)</p> <p>・個人で考えたものの共通点を見つけながらグループで交流する。</p> <p>・グループ内で、1つの分国法を作成する。</p> <p>【J】…じっくり考える)</p>	<p>・主な分国法を例示するとともに、戦国大名が領国支配のために何に力を入れていたかの視点を確認させる。 (視点) ①米の収穫を増やす ②鉱山の開発 ③商業 ④学問 など</p> <p>・確認した視点を基に、自分なりの分国法の修正をする。</p> <p>・生徒が個人で考えたものをグループで交流し、まとめる。</p>	<p>ウ 戦国大名が支配を強めていったようすから分国法を作成することができる。 (行動観察、ワークシート、発表)</p> <p>【主-①】 【他-①, ②】 【思-③】</p>
<p>展開② (18分)</p>	<p>・グループで考えた分国法を発表する。</p> <p>【H】…はっきり表現する)</p>	<p>・グループでまとめたものを、何を根拠にしたのかを明確にして発表する。</p> <p>(具体例)</p> <p>・年貢を納めない者は、罰金を支払う。(米の収穫を増やす) ・金や銀の掘り出しの仕事に参加しないものは、処罰する。 (お金の量を増やす) ・家臣は戦国大名に仕え、学問に励まなければならない。 (優秀な家臣を増やす) など</p>	
<p>まとめ (7分)</p>	<p>・本時のまとめと振り返りをする。</p>	<p>・戦国大名の国づくりのようすについてまとめさせる。</p> <p>(まとめの例)</p> <p>・戦国大名は、農民から年貢を取り立てるだけでなく、収穫量を増やすために、田畑の開発をしていた。 など</p>	